

令和 5 年 10 月 20 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13632

研究課題名（和文）気候変動政策への中国戦略的パートナーシップの関与：ブラジルとメキシコの比較分析

研究課題名（英文）China's Strategic Partnerships for Climate Policies on Brazil and Mexico

研究代表者

舩方 周一郎（MASUKATA, SHUICHIRO）

東京外国語大学・世界言語社会教育センター・講師

研究者番号：40734538

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、エネルギー資源が豊富なブラジルにおいて、地球温暖化を含む気候変動政策を実施するための制度改革に、中国やインドなどの域外大国が関与する政治過程を分析することを目的とした。経済発展を重視するブラジルは、近年、気候変動政策の実施において中国との連携を強めている。一方、中国の関与を脅威とみなし懐疑的な政権もあり、政権の政治姿勢によって中国の関与の利害が異なることが知られている。本研究では、当初の計画から大きく発展させて、2008年以降、中国、インド、南アフリカ、ロシアがブラジルと結んだ戦略的パートナーシップの役割に注目し、気候変動政策におけるBRICS諸国間の競合と協力の関係を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の知見は、中国の南南協力が活発になったアフリカや太平洋諸国の事例でも適用可能性が高い。また新興大国同士が連携する力学に注目することは、先進国と途上国の二項対立を主軸とする気候変動交渉研究と、外国政府の対外的な影響を捨象して国内の政策過程のみに焦点を当ててきた気候変動政策の研究に修正を迫る学術的な意義もある。化石燃料が持つ優位性が世界のエネルギー転換の潮流を左右する中で、現在の国際社会の情勢はエネルギー転換に向けた重大局面になる見方がある一方、ブラジル・ロシア・インド・中国・南アで構成されるBRICS諸国は連携を深めている。新興大国間の競合・協力関係を考察した本研究には社会的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to analyze the political process of the involvement of China, India, and other major extraterrestrial powers in institutional reforms to implement climate change policies, including global warming, in Brazil, a country with abundant energy resources. Brazil, which has emphasized economic development, has recently strengthened its cooperation with China in implementing climate change policies. On the other hand, some regimes consider China's involvement as a threat and are skeptical of it, and it is known that the stakes of China's involvement in this field also differ depending on the regime's stance. This study significantly evolved from the original plan, focusing on the role of the strategic partnerships that China, India, South Africa, and Russia have entered into with Brazil since 2008 and clarifying the relationship among the BRICS countries in climate change cooperation.

研究分野：国際関係論

キーワード：気候変動政策 多国間交渉 比較外交政策分析 戦略的パートナーシップ ラテンアメリカ 持続可能な開発 中国 南南協力

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1．研究開始当初の背景

2020年以降の温室効果ガス削減の枠組みを決めるパリ協定の実施ルールの下で、気候変動政策を推進するラテンアメリカ諸国と中国の利害関係に注目が集まっている。パリ協定に批准した途上国に削減義務はないが、世界全体に占める温室効果ガス排出量の割合から途上国にも削減義務を実施すべきという国際圧力を受けてきた。しかし多くの途上国では、経済成長を推進する勢力の反発から国内法制度化を実施できていない。その途上国の中でも、ラテンアメリカ諸国では豊富なエネルギー資源を駆使した工業化を進める一方、近年になり気候変動政策を実施するうえで南南協力の下で中国から技術・資金協力を得る国々が登場した。他方で類似した条件にありながら中国の関与を脅威と考え最小限に抑える国もあり、同分野の中国関与の実態は各国で異なることが分かっている。研究の開始当初は、**経済成長と環境保護の両立が迫られてきたラテンアメリカの新興諸国において政治経済的に台頭する中国政府が気候変動政策を実施する制度改革にどのように関与してきたのか、その政治過程を分析した。**

## 2．研究の目的

本研究の目的は、政府の政策形成において既存の気候変動政策研究の分析視角では説明できない事例を検証する場合に、南南協力に基づく二国間のパートナーシップの強化という新しい決定要因を提示することであった。中国とラテンアメリカ諸国が連携する力学に注目することは、先進国と途上国の二項対立を主軸とする気候変動交渉研究と、外国政府の対外的な影響を捨象し、国内の政策過程のみに焦点を当ててきた気候変動政策研究に修正を迫る学術的な独自性をもつためである。

## 3．研究の方法

### （1）年次計画

本研究は、二国間のパートナーシップの強化が国内政策の形成を制約／促進する因果関係が存在するかを検証するため、中国の関与がラテンアメリカ気候変動政策の形成に及ぼした肯定的／否定的な効果を解明する。特に気候変動政策の政治過程を、政策設計期、政策形成期、政策実施期の3段階に設定し、中国の政策関与の強弱を決める米国との地政学的近接性、経済的相互依存、政権の政治イデオロギーの変容に着目した。具体的には以下の計画を遂行するため、**2019年度**は気候変動交渉下での中国とラテンアメリカの利害関係、**2020年度**はラテンアメリカ気候変動政策に対する中国の戦略的パートナーシップの研究、**2021年度**はブラジルとメキシコの気候変動政策への中国の関与について比較分析することを予定していた。ただし、4．研究成果で後述するように、コロナ禍の影響をうけて研究計画に大幅な見直しが必要とされたこと、研究の過程でブラジルとの比較対象地域をメキシコからインド・南アフリカ・ロシアなどの新興大国の事例に変更したこともあり、研究期間を2022年度まで1年間延長した。**2022年度**は、気候変動政策に関して、ブラジルがインド・南アフリカ・ロシアとそれぞれ締結した戦略的パートナーシップに関する研究をおこなった。

## (2) 具体的な研究方法

### A. ラテンアメリカ気候変動政策に対する中国の関与

中国の関与はアジア太平洋・ラテンアメリカ間の経済連携の深化に関する研究( Myers and Wise 2016) に比べて、気候変動政策など環境面では十分に検討されていない。中国の関与はラテンアメリカの気候変動政策にいかなる短期的・長期的な利害を生んだのかを解明する。

### B. メキシコとブラジルの気候変動政策の比較外交政策分析(1991~2015)

A の成果を踏まえ両国の気候変動政策をめぐる政治過程に違いが生じたメカニズムを戦略的パートナーシップと関与と気候変動政策の進展を過程追跡して解明する(下表1参照)

	ブラジル	メキシコ
歴史的背景: 冷戦の終結	対米関係の弱体化	対米関係の維持
政策設計期(91-04)	リオサミットの開催 → 気候変動条約・京都議定書の採択	
	政府: 政策に抵抗・推進 中国の関与: なし	政府: 政策に抵抗・推進 中国の関与: なし
政策形成期(05-08年)	京都議定書発効、世界金融危機、ラテンアメリカ政策白書 → ラテンアメリカにおける中国の台頭	
	政権政党主導による決定 BRICs関係で中国・ブラジル間の連携強化	大統領主導による決定 中国と連携しつつも、対米関係を重視
政策決定期(09-15年)	コペンハーゲン会議(COP15) → 温室効果ガス排出削減にむけた各国の自発的取り組み	
中国の関与	強い	弱い
		出所: 申請者作成。

#### □. 比較事例分析での気候変動政策に対する中国の戦略的パートナーシップの役割の解明

研究方法として比較外交政策分析(Smith et al 2012)の手法を用いる。比較外交政策分析は、外交政策に関する因果関係の解明や仮説検証の方法として評価される。本研究は最類似システムデザインを採用して共通点の多いブラジルとメキシコの事例に比較分析することで二国間のパートナーシップの強化が政策の実施を推進・抑制する因果関係を解明する。

#### □. 一次資料の収集と聞き取り調査を通じた綿密な質的分析

本研究は、複写費を用いて収集した一次資料と関係者への聞き取りを実証の論拠に事例内部の綿密な質的分析を行う。特に中国研究者を年10日間雇用して、中国戦略的パートナーシップに基づく対ラテンアメリカ気候変動政策に関するデータベースの作成を実施する。

(1) 一次資料は、**多国(地域)間・二国間交渉**: 締約国会議、BRICS、G20、地域フォーラムなどの議事録、公文書、**ラ米諸国側**: ブラジルの政府資料、法令・協定・条約、全国紙記事(Folha de São Paulo)、**中国側**: 政府外交資料(中国与拉丁美洲和加勒比国家的合作计划)、全国紙記事(人民日報、新華通信)などである。

(2) **聞き取り対象**は、中国政府との交渉やメキシコ・ブラジルの政策の推進・抵抗に関与した**連邦議員、与野党**: (ブラジル)労働者党、**官僚**: 環境省、科学技術省、外務省。証言の妥当性担保のため複数の根拠から事実を確認して密閉性の高い二国間(中伯)の外交政策決定の構造を解明する。

## 4 . 研究成果

### ( 1 ) 研究計画の変更

計画当初は、2020 年以降にメキシコとブラジルにおいて関係者 への聞き取りや、公文書の収集といった本調査を実施する予定であった。しかし新型コロナウイルスの感染拡大によって、2022 年まで中南米への渡航の断念を余儀なくされた。他方、この期間では日本で入手可能な気候変動対策における南南協力に関係する文献を渉猟し、国内外での学会報告における討論者からの指摘を通じて、新興大国であるブラジルはラテンアメリカの中でも特異な役割であり、比較対象としては、メキシコなどの他のラテンアメリカ諸国よりもインドや南アフリカといった他の新興大国のほうがブラジルとの類似性が高いことが確認できたため、比較対象をメキシコから、より類似点の多い新興大国に変更して調査を継続した。

### ( 2 ) 具体的な研究成果

気候変動条約締約国会議 ( COP ) や持続可能な開発 ( SDGs ) をめぐる中国・ブラジルの交渉過程と、二か国間の相互関係に関する近年の動向を整理した。両国の間での経済的な相互利益だけでなく、新興大国として持続可能な開発目標に貢献する規範的な役割が、二カ国の戦略的パートナーシップの深化にインセンティブを与えていることを確認できた。この成果は日本国際政治学会で報告した後、日本国際政治学会に投稿し採択となった。

ブラジル・インド関係を中心に比較検討を行った結果、ブラジル・インド関係の進展速度はブラジル・中国関係より遅いものの、自由と民主主義の理念を共有することから着実な進展が見込めることが明らかになった。その成果は、米国で開催された世界国際学会 ( ISA ) に参加して報告した。

### ( 3 ) 学術的・社会的意義

本研究の知見は、中国の南南協力が活発になったアフリカや太平洋諸国の事例でも適用可能性が高い。また新興大国同士が連携する力学に注目することは、先進国と途上国の二項対立を主軸とする気候変動交渉研究と、外国政府の対外的な影響を捨象して国内の政策過程のみに焦点を当ててきた気候変動政策の研究に修正を迫る学術的な意義もある。化石燃料が持つ優位性が世界のエネルギー転換の潮流を左右する中で現在の国際社会の情勢はエネルギー転換に向けた重大局面になる見方がある一方、ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカで構成される BRICS 諸国は連携を深める。新興大国間の競合・協力関係を考察した本研究には社会的意義がある。

以上の結果をふまえて、本研究は、学会報告 15 件 ( うち国際学会 6 本 ) 論稿 8 本 ( うち査読あり 6 本 ) 担当執筆の書籍 7 冊 ( うち 1 冊はスペイン語、2 冊は英語 ) 単著 2 冊という成果となった。この事実は、本研究が当初の計画以上の成果があったことを示す証左といえる。

以上

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 舩方周一郎	4. 巻 38
2. 論文標題 ブラジル地方選挙2020 - パンデミック下で再選を目指した現職市長たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/latinamericareport.38.1_14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 舩方 周一郎	4. 巻 2022
2. 論文標題 戦略的パートナーシップを通じたブラジル気候変動対策への中国の関与	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 207_81 ~ 207_96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11375/kokusaiseiji.207_81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 舩方周一郎	4. 巻 1431
2. 論文標題 ボルソナーロ政権の中間評価-イリベラルな民主主義の行方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ時報	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 舩方 周一郎	4. 巻 37
2. 論文標題 ブラジルにおける中国文化外交と孔子学院の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ・レポート	6. 最初と最後の頁 64 ~ 77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/latinamericareport.37.2_64	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 舛方周一郎	4. 巻 1434
2. 論文標題 バイデン新政権の気候変動対策とラテンアメリカ・カリブ諸国の対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ時報	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川 匠郎、舛方 周一郎	4. 巻 60
2. 論文標題 ラテンアメリカの大統領制下における大連立 ブラジルの事例分析を通じて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 34 ~ 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.60.2_34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 舛方周一郎	4. 巻 41
2. 論文標題 気候変動政策の形成における政策ネットワークの役割 ブラジルとメキシコの比較分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イベロアメリカ研究	6. 最初と最後の頁 19 - 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ラテンアメリカ諸国における大統領弾劾成立の条件 分野横断型データセットを用いた比較研究に向けて	4. 巻 9
2. 論文標題 舛方周一郎・石井雅章・磯田沙織	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 グローバル・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 217 - 241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舩方周一郎	4. 巻 44
2. 論文標題 ブラジルにおける政治的分極化と「消えゆく民主主義」の克服	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イベロアメリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Shuichiro Masukata
2. 発表標題 China's Strategic Partnerships for Climate Change Policies in Brazil: Adding perspective from Japan
3. 学会等名 East Asian Partners Dialogue on Latin American Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩方周一郎・新川匠郎
2. 発表標題 大統領を介した権力分掌メカニズムへの一考察：コロンビアとブラジルの比較を通じて
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Masukata, Cristina Yumie Inoue, Nanahira de Rabelo e Sant'Anna
2. 発表標題 Global Environmental Governance, and Cooperation in Environmental Sustainability between Brazil and Japan,
3. 学会等名 CAPES-JSPS: Partnership for a Change: Structuring Brazil-Japan Cooperation,
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 コロナ禍におけるブラジル政治危機と米中対立下の外交戦略
3. 学会等名 日本ブラジル中央協会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ブラジルにおける政治的分極化と『消えゆく民主主義』の克服
3. 学会等名 上智大学イベロアメリカ研究所レクチャーシリーズ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro Masukata, Cristina Yumie Inoue, Nanahira de Rabelo e Sant ' Anna,
2. 発表標題 Global Environmental Governance and ODA from Japan to Brazil
3. 学会等名 Latin American Studies Association(LASA-Asia) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Masukata
2. 発表標題 Emerging Power ' s Strategic Partnership in Brazil for Climate Change Policies: Comparative Analysis on China and India
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ラテンアメリカ気候変動政策への中国戦略パートナーシップの関与
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ブラジルにおける中国の文化外交と孔子学院の役割
3. 学会等名 ラテン・アメリカ政経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ブラジル地方選挙2020速報-コロナ禍の現状と課題
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会東日本部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 気候変動分野にむけた日伯環境協力
3. 学会等名 ブラジル日本研究国際学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舩方周一郎・磯田沙織
2. 発表標題 ラテンアメリカ諸国における大統領弾劾成立の条件 分野横断型データセットを用いた比較研究に向けて
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ブラジルにおける民主主義の後退？漸進する政治改革とイリベラルな反動
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 舩方周一郎・新川匠郎
2. 発表標題 共同研究の目的・メリット：地域研究を取りもどすために
3. 学会等名 ラテン・アメリカ政経学会
4. 発表年 2019年～2020年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 国際交渉におけるラテンアメリカの役割と生物多様性・気候変動対策
3. 学会等名 幕張新都心公開セミナー [ SDG s とラテンアメリカ 環境保全が農業開発かの相克を超えて ]
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ブラジルから見た対中関係：重層的な深化
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Masukata
2. 発表標題 Emerging Powers' Cooperation for Energy Transition: Boosting the South Africa-Brazil Strategic Partnerships
3. 学会等名 The 5th South Africa-Japan University Forum (SAJU) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 ブラジル気候変動政策の変遷とアマゾン森林ガバナンス
3. 学会等名 ラテンアメリカ・カリブ研究所講演会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Masukata
2. 発表標題 Global environmental governance and ODA from Japan to Brazil
3. 学会等名 JICA Chair Special Lecture "BRAZIL-JAPAN COOPERATION: FROM COMPLEMENTARITY TO SHARED VALUE" BOOK LAUNCH SEMINAR (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Masukata
2. 発表標題 Russia's Strategic Partnerships with Latin America for energy policies: A Lesson from Brazil
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 舩方周一郎
2. 発表標題 地域と世界を往還する思考—分極化するブラジル政治の行方
3. 学会等名 上智大学大学院国際関係論専攻講演・研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Y. Murakami y E. Peruzzotti	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Editora Universidad Veracruzana	5. 総ページ数 426
3. 書名 America Latina en la encrucijada: coyunturas ciclicas y cambios politicos (2010-2020)	

1. 著者名 川島 真、池内 恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 UP plus 新興国から見るアフターコロナの時代	

1. 著者名 松下 冽、田巻 松雄、所 康弘、松本 八重子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 日本の国際協力 中南米編	

1. 著者名 舛方 周一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 270
3. 書名 つながりと選択の環境政治学 - 「グローバル・ガバナンス」の時代におけるブラジル気候変動政策	

1. 著者名 畑恵子、浦部浩之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新評論	5. 総ページ数 324
3. 書名 ラテンアメリカ 地球規模課題の実践	

1. 著者名 Hamaguchi Nobuaki and Danielly Ramos	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 224
3. 書名 Brazil Japan Cooperation: From Complementarity to Shared Value	

1. 著者名 岩崎 正洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 命か経済か COVID-19と社会の変容	

1. 著者名 舩方周一郎・宮地隆廣	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 328
3. 書名 世界の中のラテンアメリカ政治	

1. 著者名 Hiroki Kusano and Hiro Katsumata	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 170
3. 書名 Non-Western Nations and the Liberal International Order: Responding to the Backlash in the West	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------